

リフォーム後 住宅外観



三角屋根の部分が増築した部分

Up リフォーム

既存部分を生かしながら
木造で増築

2世帯が仲良く暮らす家に

リフォーム後 屋根裏部屋



屋根裏部屋。壁を設けずオープンな空間に。四十五センチ角の箱を利用して本棚をつくり、間仕切りにした

両親との同居を考えて実家をリフォームするケースは多く見られる。しかし、築年数が長い住宅の増改築は難しいもの。既存の住宅をうまく生かして、家族みんなが快適に暮らせるリフォームをしたい。

施主の要望

【施工のポイント】
築二十五年ほどになるR造二階建て住宅。高齢になった両親と同居することが決まり、夫婦と子供四人、合計八人の大家族に同居するにあたって、二回部分をリフォームし、寝室と子供室を設けたい。

C造住宅にR造で増築するのは、検討した結果、構造的に無理と判断。既存の二階部分に軽量な木造を増築することになった。木造を採用したことで工期が早く、屋根裏の空間が生まれ、コストが軽減された。当初、一階部分の浴室、台所を共有する予定だったが、しかし、家族が大幅に増えることで、同時に使用

する割合が増えること、夫婦世帯と若夫婦世帯の生活時間のずれが生じることも考慮して、二階部分に簡単な夜食などがつくれるミニキッチンとシャワー室を設けた。屋根裏部屋は、壁をつくらず、大きな空間に。裏の両面から使え、子供でも持ち運びできる四十五センチ角の箱で構成する本棚間仕切ることにした。

リフォーム後 2階平面図



屋根裏部屋平面図



リフォーム後 階段部分



二階から屋根裏部屋へ上る階段。階段下は収納

リフォーム後 住宅外観立面図



は既存の部分

両親二人だけの暮らしから、八人の大家族へ。当初、一階に吹き抜けがある居間をつくり、そこを生活空間の中心に、その周りに各個室を設けるプランを検討していた。しかし、施主の「両親と共有できる時間を大切にしたい」との意向から、一階を共有空間の中心にして、リフォームする部分には人数分の個室をつくることに。

施主の上地さんは、「ツーバイフォー住宅の外観は、三角屋根がかわいらしい。夢のある屋根裏部屋に子供たちは大喜びです」とにっこり。

リフォームの現場から

《DATA》

家族構成：両親、夫婦、子供4人
工事期間：約3ヶ月
工事費：960万円
資金構成：自己資金